

《2012年IFTAシンガポール大会のレポート》

茨城大学 工学部
准教授 鈴木智也

■はじめに

私は近年、テクニカル分析に興味を持ちまして、第1次通信講座の受講を始めました。また絶好のタイミングで、IFTA年次大会において大会サポーター制度が導入され、非常に安価で世界中のテクニカル分析を学ぶことができました。特に書籍では分からない発表者の人柄やテクニカル分析に対する情熱を知ることができ、より一層、テクニカル分析を研究テーマに取り入れたいと考えるようになりました。

少々前置きが長くなりますが、そもそも私がテクニカル分析に興味を持った理由は、研究テーマが「データ分析と将来予測」だからです。もう少し詳細を述べますと、金融市場のような複雑系で生まれた現象(=ヒストリカルデータ)を解析し、変動パターンに法則性を見つけ、その法則性を将来予測に役立てます。まさにテクニカル分析です。ここで本当に市場に法則性は存在するのか?といった疑問に答えるために、コンピュータを駆使した実データ解析が重要になります。これはテクニカル分析と相反する「株価ランダムウォーク説」をひっくり返すための証拠集めと考えて頂けると分かりやすいと思います。

複雑系理論によれば、金融市場に法則性が存在しても全く不思議ではありません。複雑系とは、カオスやフラクタルに関係する物理用語ですが、ポイントは簡単です。個々(=ディーラ)が互いに影響し合った結果、全体(=チャート)にルールが生まれる集合体(=市場)を指します。まさに金融市場です。このようにルールが自発的に創られることを「創発現象」といいます。エリオット波動理論がフラクタル性に着眼しているように、従来のテクニカル分析はこの創発現象を経験的に語り継いだものだと考えられます。しかし従来は、主に1次元の価格データを直接分析しますが、私の専門である非線形力学系理論では1次元データを高次元に拡張してから分析しますので、従来のテクニカル分析と異なるルールを抽出できる可能性があります。私はこれを「非線形テクニカル分析」と称し、新しい分析手法の可能性として日々模索しています。特にテクニカル分析の長所である分かりやすさを維持しつつも、力学系理論や複雑系理論などに基づくアカデミックな側面も強化できればと考えています。

■会場の雰囲気について

さて、前置きが長くなってしまいましたが、IFTA大会をレポートしていきます。まず会場の雰囲気ですが、非常に和やかでリラックスして聴講できます。専門集団が集まると議論が白熱してバトル(?)になることがありますが、本大会では皆が皆をリスペクトしているようでした。当然ながら言語は英語ですが、日本語による同時通訳がありますので講演を理

解する上で特に問題無いと思います。逆に発表者としての登壇を考えつつも英語発表に不安を感じる場合でも、質疑応答の時間は非常に短いので、本発表をきっちり準備すれば大丈夫だと思います。俗に口頭発表は言語のレベルより熱意の方が重要だと言いますが、実際に熱意溢れる発表者が多く大変印象的でした。またテクニカル分析ではローソク足や一目均衡表など日本のイメージが強いためか、外国人からよく話しかけられました。このような方は日本に感心を持っている場合が多いので、話が盛り上がり易いです。昼食にはシンガポールならではの名物料理が提供され、非常に美味しかったです。

■講演内容の難易度について

以下に示すとおり、おなじみのテクニカル分析が講演の基盤になっていました。私は第1次通信講座受講中の初学者ですのでIFTA大会と聞くと、難解な手法や専門用語に満ちた敷居の高い会合では？と心配していました。そのような事態に備えて関連書籍を数冊所持して聴講に望みましたが、一度も書籍を開くことはありませんでした。各講演では分析手法の定義を説明してくれますし、直感的に理解させてくれるプレゼンが多いので、初学者でも十分に理解できて楽しめる大会だと思います。この直感的に理解させる工夫が、外国人のプレゼンが上手いと評されるポイントなのかもしれません。特に、(ダジャレのような)イメージ図を用いて印象づける手法は、非常に参考になりました。日本でもたまに拝見しますが、うまく決まった例を見たことがありません。要はダジャレなのですが、洒落っ気が違うというか… それ以外については、最近日本人でもプレゼンが上手い方はかなり沢山いますので、有為な格差は無いと思います。

講演は初学者でも戸惑わないと思いますが、最初のウォークアバウトという催し物には難度があります。各テーブル5人程度に分かれてフリーディスカッション(英語)します。例えば、自国の市場の特徴を紹介しあったり、今後のIFTAの展望について意見交換します。私のように各話題について馴染みが浅いと、英語の壁も加わり議論に苦しみますので、その場合は並行して開催される日本人用のウォークアバウトに参加されると良いでしょう。

■発表された分析手法の傾向

主要口頭発表(12件)で用いられたテクニカル分析手法を集計してみました。ご覧のように、お馴染みの手法が中心になっていますので、気軽に聴講できると思います。特に日本発祥のローソク足分析の人気の高さが特徴的です。もはや世界中で必須の分析手法と言えます。(*)必ずしも正確な分類では無いと思いますので、あくまで目安とお考えください。

[指標]

- ・ローソク足分析: 8件
- ・ボリンジャーバンド: 3件
- ・ストキャスティクス: 2件
- ・移動平均: 3件

- ・ MACD: 1件
- ・ RSI: 4件
- ・ モメンタム: 2件
- ・ 一目均衡表: 2件
- ・ ポイントアンドフィギュア: 1件
- ・ 練行足: 1件
- ・ 価格帯別出来高: 1件

[戦術]

- ・ ゴールデンクロス: 2件
- ・ ボラティリティーブレイクアウト: 2件
- ・ ダイバージェンス: 2件
- ・ ポートフォリオ最適化: 1件

■発表内容の傾向

周知の分析手法を紹介しただけは新規的ではありませんので、各発表で主張されたポイントを整理しておきます。いずれもテクニカル分析を取り巻く主要な関心事だと思います。
(※)これらの分類もあくまで目安とお考えください。

- ・ 新しい重要パターン(法則性)の紹介: 2件
- ・ ENTRY/EXITのタイミングの決め方: 3件
- ・ 複数の時間スケールを同時に用いる重要性の紹介: 2件
- ・ 従来テクニカル指標の改良: 2件
- ・ テクニカル分析に用いるツールの紹介: 2件
- ・ 中国など特殊な市場に対するテクニカル分析の適用事例: 1件
- ・ アルゴリズムトレードなど最近の業界事情: 3件
- ・ 様々な金融市場における特徴の紹介: 1件

■IFTA年次大会に参加するメリット

以上を踏まえて、最後に本大会に参加して良かった事をまとめます。まだ参加されていない方々に、ご興味を持って頂けると幸いです。

- ・ テクニカル分析をより身近に感じられる

統計学では区間推定という考え方がありますが、自分の予想に対して誤差の上限と下限を推定します。本大会に参加する前は、テクニカル分析に対するイメージに区間が無く漠然としていました。しかし実際に活躍されている方々からテクニカル分析の使い方を披露して頂き、テクニカル分析が範疇とする区間がより鮮明になりました。特に、発表者は各国を代表する方々ですので、情報の質について安心して参考にすることができます。

・テクニカル分析に興味を持つ方々と出会える

共通の興味を持つ人々は、時に大きな助けになります。懇談から新しい発見が生まれたり、協力して大きな仕事を成せる可能性も高まるでしょう。私は大学勤務ゆえ、実際に金融市場で活動されている方々との接点に乏しく、非常に困っておりました。そこでNTAAという絶好のコミュニティーに出会い、早速入会した次第です。IFTA大会でも日本人のみのウォークアバウトや懇親会がありますので、たとえ英語に自信が無くても必ずネットワークを広げることができます。

・ネットワークを世界へと広げることができる

英語力にも依りますが、上記は国内に限りません。もっと英語ができればと悔やんだ場面もありますが、ひとまず直接話した事実があれば、いざという時にメールを送っても対応してくれるのでは？と密かに期待しています。大学教員の場合、サバティカル制度(=短期間だけ海外で研究に専念できる制度)を得るチャンスがありますので、その際に受け入れてくれる方を密かに探しています(と言いつつ書いていますが)。

・資料収集ができる

もし理解できない講演があったとしても大丈夫です。大会直後にプレゼンに用いたスライドや音声が無料公開されます(但し、参加者限定のアクセス制限あり)。本サービスを通じて全講演を復習できます。なお、これらは自分が英語発表する際の参考資料になりますし、英語学習のヒアリング教材としても活用できるでしょう。但し、日本語の音声通訳は付きません。技術的には十分可能だと思いますので、対応して頂けると大変嬉しいです。

・海外旅行ができる

もちろんこの点も重要なポイントでしょう。シンガポールと言えばマーライオンだと思っていた私にとって、マリーナベイサンズを筆頭とした近代的建築物は圧巻であり、新興国に対する認識を改めました。またカジノでは中国系の方々の情熱や食欲さ(?)を実感し、教育界でも押されがちな日本が心配になりました。オーチャードのファッション街は、銀座のような高級感と渋谷のようなポップさが融合した贅沢な町並みでした。それゆえ街中にお客で溢れ、経済的にも強いパワーでみなぎっていました。こういった体験はやはりTVや雑誌では得難く、実際に行ってこそ味わえる肌感覚であります。味と言えば、チキンライスやパクテーなど現地ならではの本物を試すことができ、非常に良い思い出になりました。

■最後に

このような機会を提供して下さった、IFTAおよびNTAA関係者の皆様に深く感謝致します。次回の開催地はサンフランシスコであり、再び魅力的な地であります。来年もIFTA大会に参加したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



2012年IFTA（国際テクニカルアナリスト連盟）シンガポール大会スポンサー企業

Sponsors for IFTA 2012 Singapore



ボリンジャー・キャピタル・マネジメント
P.O. Box 3358
マンハッタン・ビーチ、カリフォルニア 90266、米国
Tel: +1 310-798-8855
Web: www.bollingerbands.com



Bollinger Capital Management
P.O. Box 3358
Manhattan Beach, CA 90266 USA
Tel: +1 310-798-8855
Web: www.bollingerbands.com



ブーケ・ド・フルーレット
E-mail: bd_fleu@mbr.nifty.com
Web: <http://bd-fleurettes.eco.coocan.jp>
メールマガジン(有料): <http://www.mag2.com/m/0001301453.html>
メールマガジン(無料): <http://archive.mag2.com/0001421750/index.html#>
Facebook ページ: <http://www.facebook.com/bd.fleurettes>
Twitter「まぶぼっと」: <http://twitter.com/#!/mabubot>



Bouquet de Fleurettes
Email: bd_fleu@mbr.nifty.com
Web: <http://bd-fleurettes.eco.coocan.jp>
"Mail Magazine" (pay): <http://www.mag2.com/m/0001301453.html>
"Mail Magazine" (free): <http://archive.mag2.com/0001421750/index.html#>
Facebook: <http://www.facebook.com/bd.fleurettes>
Twitter "Mabubott": <http://twitter.com/#!/mabubot>

TS China Research

TS・チャイナ・リサーチ
〒135-0061 東京都江東区豊洲4-9-13-610
Tel: 03-3531-9282
E-mail: tashiobj@china-research.co.jp
Web: <http://china-research.co.jp/>

TS China Research

TS China Research
4-9-13-610 Toyosu, Koto-ku, Tokyo 135-0061, Japan
Tel: 81 3-3531-9282
E-mail: tashiobj@china-research.co.jp
Web: <http://china-research.co.jp/>

IFTA 2012 Conference website 大会情報

<http://conference.ifta.org/2012/>

IFTA 2012 Conference brochure (English) 大会パンフレット

<http://conference.ifta.org/2012/docs/brochure.pdf>

IFTA 2012 Conference brochure (Japanese) 大会パンフレット(日本語)

<http://www.ntaa.or.jp/wp-content/uploads/2012/07/IFTASingaporeBrochureJapanese.pdf>

IFTA website IFTAウェブサイト

<http://www.ifta.org/>

NTAA website NTAAウェブサイト

<http://www.ntaa.or.jp/>

2012年IFTA（国際テクニカルアナリスト連盟）シンガポール大会スポンサー企業

Sponsors for IFTA 2012 Singapore



エフ・エリオット

〒146-0085 東京都大田区久が原1-32-2

Tel: 03-3755-5506

E-mail: f-elliott@f-elliott.com

Web: <http://www.f-elliott.com/>

F-Elliott

1-32-2, Hisagawara, Ota-ku, Tokyo 146-0085, Japan

Tel: 81 3-3755-5506

E-mail: f-elliott@f-elliott.com

Web: <http://www.f-elliott.com/>

IFTA 2012 Conference website 大会情報

<http://conference.ifta.org/2012/>

IFTA 2012 Conference brochure (English) 大会パンフレット

<http://conference.ifta.org/2012/docs/brochure.pdf>

IFTA 2012 Conference brochure (Japanese) 大会パンフレット(日本語)

<http://www.ntaa.or.jp/wp-content/uploads/2012/07/IFTASingaporeBrochureJapanese.pdf>

IFTA website IFTAウェブサイト

<http://www.ifta.org/>

NTAA website NTAAウェブサイト

<http://www.ntaa.or.jp/>